

会員と千葉県連盟をつなぐ

ちばニュース

2012年1月号



千葉県勤労者山岳連盟

Chiba Workers Alpin Federation

2012年 1月1日発行 通巻225号(毎月1回発行)

今年こそは

良い年でありますように！

1月号 目次

1月号目次		2
新年のご挨拶	吉田 理事長	3
新年のごあいさつ	広木会長	4
私の一名山	鶴田理事	5
NPO法人設立総会報告		6
NPO法人設立趣意書		7
記念講演・もみじロードハイクにて	うざわ 喜久雄	8
花博士の花便り	中原 喜代治	9
房総ロングハイク報告	安彦 秀夫	10
リレーエッセイ カムチャッカ報告	太田 淑子	12
第5回ハイキング委員会報告		14
第14回ふれあいハイキング案内		15
登山時報 1月号より		16
県連便り		17
1・2月予定表		18

表紙と「私の一名山」について

今月号の「私の一名山」は、鶴田副理事長にお願いした。
頸城山塊の名峰「火打山」は山スキー屋にとっては、あこがれの山である。
山スキー・沢登りを極めるために、ちば山の会を選択したと言う、鶴田副理事長の思いのこもった山である。夏は沢・冬は山スキーを中心に楽しむ、山の会に入って本当に良かったと語る時の鶴田さんの眼は青年の様である。
何度も通ったであろう「火打山」、しかし、まだシュプールを描いていない「火打山北面」に挑戦する気持ちを持ち続け、一名山にこだわってほしい。

編集委員会

新年のご挨拶

理事長 吉田 哲治

新しい年を迎えるにあたり一言ご挨拶申し上げます。

まずは、昨年4月より取組んでまいりました東日本大震災へのご支援・ご協力に対しまして、あらためて厚く御礼申し上げます。4月より気仙沼・唐桑半島への支援から始まりまして、11月まで21次にわたり延べにして427名の多くの参加をいただきました。本当にありがとうございます。我々一人ひとりの想いや行動は、被災された方への心に届き、大きな支援のうねりになってきたかと思えます。

労山の会員で良かった、千葉県連での活動ができて良かった、という多くの声をいただきました。今回のこの支援は労山だからこそできた活動だったかと思えます。労山の組織体としての有り様を見ることができ、私も労山会員であって本当に良かったと思うと同時に、同じ釜の飯を食い共に行動してきた千葉県連の多くの仲間を誇りに思えます。支援を通して会を越えての連帯感が生まれ、千葉県連としての一体感、絆が強固になった一年だったとも思えます。

しかしながら、支援に行くたびに復旧・復興の進まない現地の状況を目の当たりにしたとき、我々の思いはこの支援が、3・11を迎えてもなお、継続していきたいという多くの会員の声となってきました。その声がNPO法人設立への流れとなり、4月以降はNPO法人として活動を継続していきます。すでに法人の設立申請は済ませており、後は認証を待つばかりとなっています。法人には正会員の他、賛助会員の制度も設けておりますので、千葉県連の会員のみならず、広く法人への参加を呼びかけていきますので、今後ともご協力・ご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。

さて、残念ながら昨年においては死亡事故が発生しています。言うまでもないことですが、我々山岳団体の一番の使命は、極力事故を起こさない、起きないようにシステム・体制を構築していくことにあります。登山活動を続けていくうちにはある程度の事故が発生するのはやむを得ないことではありますが、それでも、それを極力減らしていく努力が我々山岳団体には求められているところです。

昨年の代表者会議において、ジャンル別のネットワークの構築を呼びかけたところ、幸いに多くの賛同を得ました。その後は私の怠慢によりその進捗は芳しく有りませんが、これから早急に体制の構築を進めたいと思っております。災害支援で形作られた千葉県連の横のつながりがきっと大きな力となり、山岳団体としての技術力の向上、しいてはそれが安全登山への啓蒙活動へとつながっていくと確信しています。

他にも、会員拡大や自然保護活動等、やるべきことは多々あります。それらを一つひとつ着実にやっていくことにより、先輩が守り育ててきた千葉県連としての連帯を更に強め、より強固な組織体を目指していこうではありませんか。

今年一年、宜しくお願い申し上げます。

新年のごあいさつ

千葉県連盟 会長 広木 国昭

新しい年を迎えました。

一年間、県連盟活動に参加・協力をいただき有難うございます。

新年のご挨拶と同時に幾つかのお礼と報告をさせていただきます。

2011年は、多くの事がありました。3月11日に発生した東日本大震災の支援活動には、4月より参加いただきました。気仙沼市唐桑半島で、いち早く支援活動を始めた栃木県連・支援隊に合流しました。駐車場にテントを張っての支援活動は、まさに山屋の私達にピッタリの活動でした。その後、石巻市水沼地域の農地への支援活動を11月まで実施しました。その間、吉田理事長を先頭に、各会より400名を超える参加をいただきました。

個人的には、千葉県連盟の皆さんとの支援活動にはあまり参加出来ませんでした。全国連盟理事会に設置された「東日本震災対策本部」の一員として、被災地を訪れ全国からのボランティア活動のコーディネイトをして来ました。

現地受入れ先との打ち合わせでは、被災会員の現状に接して、1人でも多く、1日でも早く長くが急務である事を実感しました。京都、滋賀、石川などから石巻市に入りました。

千葉県連の支援活動が、関東ブロックから全国に大きなインパクトを与え、石巻を中心に労山の組織的な支援活動の基盤をつくりました。

この経験から、息の長い支援活動を見据えてNPO法人「ちば労山ゆう」を立ち上げました。吉田理事長の下に多くの会員の入会・参加をお願いします。

「鬼泪山国有林を山砂採取から守る運動」が勝利しました。2009年度総会において「鬼泪山を守る運動」への参加を特別決議しました。全国地方連盟への署名活動の協力要請・クリーンハイク・見学会などを通じて地元の守る会との協力が運動を支えました。しかし、いつまた山砂採取問題が再燃するか予断を許さぬ現状です。地元守る会と協力して、厳しく見守る必要があります。この運動は、自然保護の原点です。

私たちは「安全に山を、自然を楽しむ」団体です。山での事故・ケガなどを起こすことは、絶対にあってはならない事です。

残念ですが、2010年は死亡事故が発生しました。また、骨折事故も多発しました。それらの事故原因は、どうして？ なぜ？ と思える内容です。当該の会は勿論、加盟会も絶対に同種事故を起こさないで下さい。残念な結果ですが、事故を起こす会は繰り返し事故を起こしています。2012年は絶対に事故を起こさない決意をしていただきたい。

最後に、各会と県連盟の協力体制をより強固にして行くためにご協力をお願いします。

登山時報購読のお願い

登山時報は、全国連盟の機関誌です。1月号には、登山情報(冬季知床縦走)・講演会情報(不倒のクライマーの挑戦・山野井 泰史)・震災情報(放射能時代の登山)が特集です。お役立ち情報(山のファーストエイド・地図読み迷人)など内容は豊富です。エッセイ人では、吉田理事長が紹介されています。(当誌に掲載)

登山時報 毎月15日発行・定価 300円(年間購読 3,000円)直接郵送も有
申し込み:各会にてまとめて全国事務局へ
問合せ等、何でもOK:千葉県連 広木まで(連絡先は本誌、県連便りのあり)

ちば山の会 鶴田秀雄

火打山は頸城山塊の最高峰である。頸城山塊は豊富な積雪、深い森、みずみずしい池や原、そして何よりも個性的な山々がそれぞれの山容をのびやかに繰り広げている景観は素晴らしい。そのなかにあつて火打山は北に位置し高谷池を隔ててすっきりした稜線をみせている。3年前の5月に高谷池ヒュッテをベースに三田原山から火打山に囲まれた一帯を歩き、登り、滑った二日間は忘れられない思い出となっている。しかし、火打山を私的一名山としてあげるのは、その北面に、憧れながらもなかなか果たすことのできない素晴らしい山スキーのコースを持っているからである。国土地理院2万5千分の1地図「湯川内」を見てみよう。火打山頂から西に焼山へ続く稜線を少し下ったところに影火打の小ピークがある。ここから北西に伸びる狭い尾根は、やがて焼山の北面に展開する広大な斜面に至る。等高線の間隔を徐々に広げながらほぼ真北に向かって伸びて行くこの斜面は、焼山北面台地と呼ばれ山スキーヤーの聖地となっている。下った先には笹倉温泉があり想像するだけでも心が躍る。一方火打山頂から北東に向かって黒菱山を越えて黒菱川へ落ち込む斜面は地図上でもひとときわ目につき、山スキーを経験したものならだれもが心を動かされる様相を呈している。これらの山域は火打山頂から眺めたことがあるだけだが、その奥深さは充分に感じられた。最近では毎年4月になると火打山の北面が心に浮かび一昨年などは日程も決め、強力な同行メンバーも決定していたが、実行をあきらめてしまった。いろいろ理由はあったが、私自身にこれらのコースを踏破するだけの実力が備わっていないことが一番大きな要因だと思っている。

火打山頂に至る斜面全体がスケートリンクのようなアイスバーンになることもあるという気象条件の厳しさ、そしてコース取りのむずかしさを考えると、実現できる日がやってくるかどうかともさだかではない。

そうであっても、シーズンになればその名が心に浮かび雪の斜面に思いをはせることが続く限り、火打山が私にとっての名山であることは変わらない。



(高谷池付近からの火打山)



(火打山頂から焼山北面台地を望む)

NPO 法人ちば労山ゆう設立総会報告

NPO 法人ちば労山ゆう

理事長 吉田 哲治

去る12月20日(火)、千葉県勤労者山岳連盟を設立母体とする「NPO 法人ちば労山ゆう」の設立総会が、船橋市の西部公民館で開催されました。設立の経緯に関しては次頁の設立趣意書を参照いただくとして、定款等の議案を滞りなく討議・採択して無事開催することができ、22日(木)には千葉県庁への本申請も済ませ、後は2月間の一般への定款等の縦覧を経て、来年3月中には認証を得、法人としての登記を済ませて4月1日発足の予定です。

3月までは千葉県連としての支援活動となりますが、4月からはNPO 法人が支援の実施主体となり活動していきます。法人には正会員の他に、賛助会員の制度も設けてありますので、千葉県連の会員の他にも広く法人への参加を呼びかけていきたいと思っています。これからも熱いご支援・ご協力、よろしくお願い致します。

ちなみに、ちば労山ゆうの「ゆう」には、友達のゆう、山に遊ぶのゆう、あなたと私のyou、被災者に寄り添い、息の長い支援を続けていきたという、我々のいろんな想いを込めてつけた名称です。

設立当初の役員は下記の通り(括弧内は所属会)

理事長 吉田 哲治(船橋勤労者山の会)

副理事長 廣木 國昭(ちば山の会)

理事 山本 尚徳(かがりび山の会)

理事 佐藤 勝子(ふわくハイキングサークル)

監事 平井 昭(かがりび山の会)

他、事務局長として角掛詢子(千葉こまくさハイキングクラブ)を選出しました。



(法第10条第1項第5号)

設 立 趣 旨 書

平成23年12月20日

NPO法人ちば労山ゆう

1 設立の趣旨

東日本大震災の未曾有の災害に際して、法人の設立母体となった「千葉県勤労者山岳連盟（略称：ちば労山）」は震災当初より、主に宮城県気仙沼市、石巻市にがれき撤去等の災害支援活動を行ってきた。4月初旬より始まった支援は、11月まで21次にわたり延べにして427名という多くの参加者を得て支援を継続してきた。

支援に行くたびに、なかなか復旧・復興の進まない現状を目の当たりにし、これからの長い道のりを憂えると同時に、我々のなすべきことを出来るかぎりやっていたい、被災者に寄り添う支援を続けていきたい、我々の一人ひとりがそう思う。

そして、災害支援と同じく大切なこととして実行してきたことは、気仙沼や石巻、女川町、多くの子供たちが津波に流された大川小学校などの被災状況を自身の目で広く見て、肌で触れて自身の脳裏に焼き付け、マスコミ等の報道では決して感じることのできない被災地の実情を、山の会や地域、職場で伝道師として語り伝えてきた。それが支援の輪の広がりとなり、継続した支援につながっていくと確信してのことである。

大震災より1年を迎える来年の3月11日以降もなお、災害支援を継続していくべく今後の活動を模索していたが、山岳団体としての組織形態ではボランティア活動を継続していくには限界があると判断し、NPO法人を設立して社会的な信頼を得て、法人の名の下に活動の継続を望むに至った。

法人設立後は東日本大震災のみならず、今後起こりうる災害に対して、被災地、被災者への支援を広く行っていく所存である。

2 申請に至るまでの経緯

23年3月 千葉県勤労者山岳連盟理事会において、東日本大震災への支援活動を決定する

23年4月 気仙沼市唐桑半島へ初めての災害派遣
以降、11月まで21次にわたり、延べにして427名の支援参加

23年12月 発起人会開催

23年12月 設立総会開催

千葉県連と房総の自然保護

うざわ 喜久雄
(元県連自然保護委員長)

七里川渓谷、黄和田畑にある七里川温泉に50人を超す会員が集まって来て、ありがとうございます。

私がなぜ「ありがとう」と言うのか？

そこから話を始めましょう。それは県連がとりくんで成功した「追原ダム」を造らせず、七里川の清流と追原の巨大カエデの樹を守ることになった、その自然保護運動の拠点となった場所に、この宿があったからです。

まずこの運動は、・七里川渓谷とはどこにあるか ・そこにダムを築くのに「追原ダム」と呼ぶのはなぜか。 の学習から始まりました。その学習が、この宿の今皆さんが居る大広間で始まったのです。そして実際に七里川渓谷へ入り、ゴミをひろいながらその清流に棲むウグイやホトケドジョウやカジカガエルやモリアオガエルを実際に見て、生き物の豊かな渓谷をダムにしてはいけないと言う確信をつかみました。

一方で渓谷沿いに走る谷間の道が、湖水で水没するため、橋を何本かけて山をくりぬき追原のカエデの木の脇が大型道路になり、ここを車が走れば廃棄ガスで巨木がもたないこと、静かな落人部落の趣きを遺す山里がこわれてしまうことを現地を歩いて学びました。

数次にわたるクリーンハイクや現地調査には東大演習林の職員や千葉県自然保護連合や野鳥の会の人達とも手をたずさえて来ました。

6月第1日曜日のクリーンハイクは地元で評判となり、亀山や黄和田畑の人達は、私達が行く1週間前にゴミひろいをやるくらいのインパクトを与えました。

労山全国連盟でも千葉の運動に合流しようと、江川自然保護委員長を派遣し、全国から署名が届くようになりました。

そして、「追原ダム建設中止」宣言をかちとりました。この祝勝会をこの宿でやりました。ところが、この宿の2階の中広間で、地元選出の県会議員と地元の顔役が「残念会」をやっていたのです。下では祝勝会、上では残念会という訳で、この二組が玄関のロビーで鉢合わせ。乱闘寸前です。

地元民が多く使うこの宿を、良く貸してくれたもんだとつくづく思うのです。この宿での学習会でのスタートがなかったら、この運動はなかったと言っても過言ではありません。この宿の2代目当主に感謝しつつこの宿を、ロングハイクとして2回も3回も使ってくれてありがとう。その企画をしてくれた、ハイキング委員会と委員長にありがとう。

地元との約束にささやかでも責任がはたせる想いです。

おしまい、県内の自然保護運動に少しふれますが、最初の取組みは「房総スカイライン」建設でした。この時は、大原、茂原、千葉、旭の会で数10人でした。

高宕山の日本サルを護れという事で、若干の路線変更で終わりました。

次が、さっき話した「追原ダム」中止でした。これは七里川温泉や木更津公民館などの会場で、三番瀬や播州干潟を守る運動とも連動して勝ちました。更に今春勝利した「鬼冪山の山砂採取」中止と国有林と湧水を護りぬいた事です。

一万人をこす署名を県に届け地元との運動とも組んで勝ちました。何よりも県連の会員が700名をこす、その力が大きかったからです。正に「数は力」「継続は力」です。

明日のロングハイキングを存分に楽しむために、千葉の山の特徴をつかみ「安・近・短」を実感し、千葉の山のシーズンは秋から冬へ、そして春こそが最高です。ゆっくり歩いて先住のくらしの跡、雨乞いや炭焼きの跡の遺るコースを楽しんで下さい。

乱雑な話、ご静聴ありがとうございました。

花博士の花便り。

ふわくハイキングサークル 中原 紀代治

オニシバリとコショウノキ (ジンチョウゲ科)

年が明けて、房総の郡界尾根の縦走で見られる花が、オニシバリとコショウノキです。“沈丁花”の仲間、ミツマタも同種です。

*オニシバリは、(雌雄異株) 落葉小木 (夏に落葉)

木の樹皮が強く鬼を縛れるくらい強いことから名づけられました。また夏に落葉するので“ナツボウズ”とも呼ばれます。花は、薄黄緑の地味な花で、良く見ないと葉で隠れているので見過ごしてしまいます。5, 6月にグミに似た実が成りますが、辛いです。日本海側では、同種のナニワズが3月頃に咲きます、これは黄色の花で良く目立ちます。

*コショウノキは、(雌雄異株) 常緑の小木

白いジンチョウゲにそっくりな花です。ジンチョウゲは、中国産の雄株で実が着きませんが、コショウノキは、雌株があり、実が辛い事からコショウノキの名前の由来です。ジンチョウゲとの見分け方は、花の数が少ないのと、花の下部に毛が有ることですが、良く見ないと分かりません、ルーペで見てください。

*この時期は、花が少ないですが、南房総では、菜の花やポピーなどの花で、春を満喫出来ます。特におすすめは、和田町の元朝桜です。花嫁街道入口の抱湖園で、一月末に満開になります。冬桜で一番早く咲き、花もソメイヨシノに近い花です。



コショウの木



オニバシリ

第28回房総ロングハイキング（紅葉ハイク）に参加して

安彦 秀夫（東葛山の会）

しばらくぶりに参加しました！
コース変更になってからは初めての参加です。当然、『七里川温泉』も初めてです。

<1>養老溪谷を歩く（12月4日）

養老溪谷駅前の真っ赤に色づいたもみじの下を潜り、ハイキングスタート！
紅葉・黄葉まっ盛りの養老溪谷は、心の洗濯をしているような気持ちになり、全身で澄んだ空気をお腹いっぱい吸い込み、秋（？）の一日を楽しむことができ、日ごろの疲れを癒すことができました。

前日の雨の恩恵で、『栗又の滝』の水量が多く、流れに迫力がありました。これまでに何度か見たことがありましたが、周りの色とりどりの木々の葉、そして流れ落ちる水の泡の白さも加わり、素敵絵を見るようで、得をしたような気持ちになりました。

<2>七里川温泉に入る（12月4～5日）

宿に着いて、早速、お風呂に直行しました。夕陽は、既に山の端に隠れていましたが、ひんやりとした空気にお湯で火照った身体を冷ましてもらい、のんびりと湯に浸ることができました。

翌朝、「昨晚とは風呂が替わっているよ…」ということで、出発間際になってから、慌てて風呂に駆けつけました。こちらの露天風呂は一段高い所に二つあり、眺めも良く、「しまった！もっと早くに入浴するんだった！」と悔やみながらも、しっかりお湯を満喫しました。

<3>懇親会でのハプニング（12月4日）

懇親会の前に予定されていた講演が、講演者の都合により変更になり、その場で、桑原委員長から、「何かしてもらえませんか？」と声を掛けられました。

急遽、講演をすることになった、う沢さんの『自然保護の現況』の演題に合わせて、私も自然保護関連の話をさせていただくことにしました。

1970年頃は、全国で自然保護の機運が高まりつつあった時期で、各都道府県でそれぞれ自然保護団体が運動を始めていた頃でした。ところが、青森県には自然保護団体が無く、全国に遅れをとってはまずいということで、私が通っていた弘前大学の教授を会長に推し、自然保護団体を全県単位で立ち上げました。

また、自転車自然保護を訴えるために一人で全国を周ったこと等も併せて話をさせていただきました。当時の新聞（各地方新聞や全国版朝日新聞）に掲載されたり、青森県のテレビの朝番組に出演する機会もあり、自然保護の大切さを話させていただきました。テレビ局では、むしろ自転車旅行に関心があったようでしたが…。

<4>東大演習林を歩く（12月5日）

「吊り橋」が通れないということで、急遽、コース変更をし、植林された杉林の尾根を歩きました。『大楓』までの往復が長かったこと！

最初の1時間程は、ハイキングコースではないので、標識は皆無。地元の林業関係者が歩く作業道なのでしょう。分岐点は特に注意しないと、どこを歩いているのか分からなくなりますよ。

但し、今回は、「ふわくハイキングサークル」の皆さんによるガイドがあり、道迷いの心配はゼロでしたが…。

どこから「東大演習林」に入ったのかは定かではありませんでしたが、兎に角、見事な樹木のオンパレードで、飽きることがありませんでした。

『楓（カエデ）』、『樅（モミ）』、『樺（ケヤキ）』の大木・巨木を鑑賞することができ、大満足の歩きでした。（前日にも『椎（シイノキ）』を見ることができました。）

更に、郷台作業所では、『センペルセコイヤ』に接することができ感激しました。

樹皮に触ってみました。とても柔らかいには驚きました。（皆さん、触れてみましたか？）

また、長い素掘りのトンネルを通過する時は、足元が全く見えず、ところどころに水たまりがあるようでした。ただただ真ん中辺を真っ直ぐ歩いた気がします。幸い登山靴を履いていたので、少々ぬかるみは問題ありませんでしたが…。

今回のロングハイクは、樹木に殆ど関心の無い私でも面白く歩け、貴重な体験ができた2日間でした。

「ふわくハイキングサークル」の地元を愛する会員の綿密なコースの下調べ、そして、吊り橋の通行不能によるコース変更を余儀なくされたにも関わらず、迅速かつ的確な対応そして資料作成には、感謝と共に脱帽します。

ありがとうございました。

2012年度の活動に対する、役員会からの提案（1）

1、支援活動について

2011年は、重大災害が多い年であった。東日本大震災・台風12号などの自然災害に加え「原発事故」はより深刻である。

労山の被災地3県への支援活動は大きな差がある。これは被災地における会員の被災状況によるものであり、支援活動の受入れ体制にある。

千葉県連の支援活動は、4月から気仙沼市・石巻市で実施して多くの会、会員の参加があった。

千葉県連は、NPO法人「ちば労山ゆう」を立ち上げて息の長い支援活動を実施する。全国連盟支援対策本部と協力し、支援地を東北3県に広げて探して行きたい。また、新しい支援活動も検討・実施して行く事も重要である。会員の皆様からの情報提供、ご意見をお願いします。

2、事故防止について

2011年も、重大事故があった。死亡事故一件・骨折事故5件。登攀中の滑落事故は支点が外れて滑落した。これは技術と同時に、事故への意識に問題は無いのだろうか。また、スリップによる骨折も発生した。

これらの事故を教訓として、同種事故を起こさない決意と教育の場が必要である。教遭委員会・救助隊を中心にして、事故防止活動を実施して行きたい。

山頂で岩盤浴を楽しむ

2011/7/8～12 カムチャッカ半島 アハチヤ山(2741m)

ふわく h c 大田 淑子

7月8日 ふわく h c の参加者 16 名は、カムチャッカの州都ハートロプブロフスカムチャッキーへ向け成田 12 時 45 分離陸。およそ 3 時間搭乗し 3 時間の時差のある北緯 53 度の地点に降り立った。現地時間 19 時。空港内にはグレーの戦闘機、かまぼこ型の格納庫(?)が見える。やはり撮影禁止。さらに入国審査は審査官 3 人で 100 人を 2 時間かけて入念に。ここで現地通訳の女性が 1 名引率。一行は宿泊施設 (ハトラカ温泉郷) に 21 時 30 分着。その 1 時間後ようやく日没。

7月9日 8時 6輪軍事車両改造車(車輪の大きさが背丈ほどのバス)がお迎え、ここから山岳ガイド(40代後半の女性)が同行。午前中はハイキング。その後スーパーマーケットに寄りキャンプハウス(標高 800m)を目指す。途中からは道が無く、河を横切り寄せられた土砂を乗り越え、かなりの段差もなんのその。たて揺れ横揺れ揺られに揺られ、雪溪の上を進むと、雪解けにヤマエンドリの紫の花があちこちに見えてきた頃到着。17時になっていた。周辺は一面の花が咲いていたが、霧が立ち込め周りの山は見えない。明日登る山も見えない。私たちは、コンテナのキャビンに泊まる。今シーズン初めての客らしく、寝袋も気持ちがいい。

7月10日 8時 標高差 1900mを日帰り行程だ。引率はA社のツアー添乗員 1 名。通訳 1 名。登山ガイド 3 名。草花の写真は撮らずに登山に集中することを注意された。溶岩の山肌と雪溪、そしてチョウノスカサ、ヤマエンドリ、フングルマ、シヤマラサキ・・・の花畑を横目に見ながら登った。2000m直前は細かな雨、そして風もある。花の姿がみえなくなり、話し声が聞こえなくなった。みんな辛そうだった。それぞれが 2000mからの行動をどうするか悩んでいたのだ。2000m地点で昼食。頂上組 11 名、下山組 5 名に別れた。(下山組は、A社の他のツアーが同じペースで登っていたので、そのグループと一緒に下山した。) そこからは、大きな雪溪を何回か大きくトラバースし、岩山の陰にできた馬の背状態の細い雪溪のルートを、全神経を集中させながら通過した。急斜面は転がったらどこまでも落ちていく大雪溪だ。いくつかの雪溪をこえ、こんどは溶岩のがれ場がつづく。ガスの中、足をとられながらも 15 時 40 分山頂に立った。それまでの辛さは吹っ飛んだのは私だけではないはず。手を取り合って喚起の声を上げた。ロシア人の登山ガイドが地面に手を当てて、「触ってごらん！」と。我らは山頂が地熱で温かいと知り仰向けになった。

なんと心地よいことか。岩盤浴としばし楽しんだが、熱くて寝てられない。ここは、活火山の火口の縁。楽しんでいたら、ロシア人のガイドが、はっきりした日本語で下山(なんていったか忘れたが、はっきりした日本語でびっくり)との声で下山開始。つらかった登った道を、あっけなくドンドン下がる。でも心は軽く、幸せいっぱい気分。2000mまで降りてくる頃には、ガスが晴れそれまで見えなかったアガチャ山と向かいにある雪に覆われたカヤク(3456)山がすっきり姿を現し、再度歓声を上げる。それからは、富士山の下山と同じ、砂礫をすべり、雪の斜面を尻で滑り。瞬く間に下山。途中一面に咲いている花をみながら・・・。

20時キャンプハウス到着後、日が暮れてくる。12時間で1900mの高低差を歩ききる。

7月11日 9時 キャンプ場周辺を2時間かけてワラ-観察。途中買い物をして1泊目と同じ温泉郷に泊まる。

7月12日 10時 降り立った飛行場から、登った山やたくさんの雪をいただいた山々を眺めながらカチャカ半島を後にした。

次年度の活動に対する、役員会からの提案 (2)

3、組織強化・会員拡大について

千葉県連の会員数は、804名を最高に721名まで減少したが、756名に復帰した。これは、各会が新しい会員を迎える活動を実施した成果です。

・会員拡大の取り組みは、市民ハイク、バスハイク、ホームページの充実などが報告されています。組織は数が全てではないが、数の力も必要です。

・組織強化についても、各会の現状報告をお願いしたい。特に10名前後の会にとっては、会報の発行・ホームページの管理は大変厳しい状況が予想される。

総会で各会の取り組みについて、報告、討論をお願いしたい。

4、県連組織の見直しが必要。

県連は、会員の要求に応えているか？ 会員から、県連活動は見えているか？ 理事会は、機能しているか？ 各委員会は、どうだろうか？

などを中心にして、県連活動の見直しを実行する。

5、50周年を、祝福出来る組織をつくる

県連創立45年の、全過程を評価・検討して50周年を「全会員と共に祝福出来る組織」にしたい。

山仲間と共に、事故の無い楽しい山行を続けられる組織をつくろう。

☆ 加盟各会・会員の意見・要求を送って下さい。

送り先：千葉県勤労者ホームページ「事務局への問合せ」まで
お願いします。

2011年度 第六回ハイキング委員会

- 1、実施日・場所 12月20日 県連事務所
2、出席者 桑原、佐川、八巻、大田、小山、川上、中原、吉沢、高見、佐藤、10名
議題

- 1、15回平日山行 玉原高原（湿原～尼ヶ禿山）
リベンジ 2012年5月10日(木)に催行決定。歩行約5時間20分
参加者 即募集開始 費用5,000円入浴代別
バス 中型2台 千葉NTT6:20発・1台
鎌ヶ谷6:00-我孫子6:30-新松戸7:00発・1台
持ち物 地図読みしますのでコンパス（磁石）持参
しおり 一分修正。 :入浴 時間により立ち寄る。

2、第28回 房総ロングハイキング反省（終了）

- 実施日 2011年12月04日(日)～05日(月) 一泊二日。
オートキャンプ～四朗治～東大演習林～黒滝コース 良かった。
参加者 松戸15、東葛6、らんたん4、市川3、ちば山1、君津3、茂原1、
ふわく9、こまくさ8、 宿泊48名 当日2名 計50名
講演 講演者 山の会らんたん 市橋雅夫氏が欠で残念
う沢先生「自然保護の現況」ちばニュース掲載
安彦さん「自然保護を立ち上げまでの苦労」良かった。
事故がありました。がゴール後でしかも大事なくて良かった。
前日の飲酒はなるべく翌日に備えて慎む事。

- 3、ちばニュース掲載引き続き行おう事にする。タイトル（山への想い）雑感
原稿掲載の順番 2月小川、3月天野、4月吉澤、5月高見、6月佐川、
7月中原、8月川上、9月佐藤、10月（

前月の20日までに広木会長までメールで danphiro@zpost.plala.or.jp

4 その他

- ① ボランティア支援隊 12月・1月は休援・2月は第2週、3月は第3週
再開・後は先方と相談して決める。NPO法人20日設立総会
② ふれあいハイキング（丹沢山系 弘法山）
実施日 2012年5月20日(日) バス3台 車いす6～7台
大勢の参加をお願いします。

- ※ 次回委員会 2012年 03月04日(日) 総会終了後・会場ロビーにて



YOSHIDA TETSUJI

吉田 哲治 さん

よしだ てつじ◎1957 (昭和 32) 年沖縄県那覇市生まれ。普天間飛行場の間近で育つ。今年度 (2011 年度) 千葉県連の理事長に就任。例年、役員選出が難航し、総会で選出することができないこともあったが、前向きに引受けてくれた。太い眉、鋭い目その厳しい顔に勇気を感じると同時に、笑うと優しい目が思いやりを感じる好漢である。就任直後に東日本大震災が発生。千葉県連は 4 月から支援活動を開始する。その先頭にあたって、現地との打合せ、食事の手配、挙句は台車を操り、ガレキの撤去は名人の境地に入る。この人なくして千葉県連の支援活動は無かった。(広木国昭千葉県連会長)

千葉県連の新理事長に就任した自称「沢バカ」 血の気の多い山屋よ！来たれ！

22歳の春の一人旅が山へ誘う

現在問題となっている普天間飛行場の間近で育った。普天間高校卒業、大学進学のため上京。本土(ウチナンチュー)は他都道府県のことをこう呼ぶの生活のほうが長くなってしまった。

登山文化が地域に根付いているとは言い難い沖縄で生まれ育った私が、山にどっぷりと浸かるきっかけになったのは、春に一人旅をした信濃路にある。残雪をいただいた後立山連峰を安曇野から眺め、あそこからの景色はどんなものが見えるのだろうか、あの稜線を歩いてみたいと興味を持ったのが最初。もちろんいきなり春の北アルプスに登れるわけではない。最初の山は大きな不安を抱えそれでも勇躍奥多摩へ向かったが、足慣らしもしていない登山靴で靴擦れを起こし、すぐごと引き返してきた苦い思い出がある。

このようないま思うと何でもないような失敗を何度も繰り返し、それでも

東京周辺の低山ハイクから始まり、八ヶ岳、南アルプスなどの冬山まで単独で行くようになってきた。そのうちに当然、歩くだけの登山では満足できなくなり、岩登りに興味を持ち、その頃住んでいた相模原市にある相模労山の門をたたいた。26歳の時だった。

最初の冬合宿で北岳バットレスの四尾根をツルベで登らせてもらった。入会して1年にも満たない新人が、いきなり冬壁への参加を認めてもらい、しかもリードさせてもらったという経験は、その後の登山人生に大きな糧となった。山岳会の持つ意味を考える上でも大きなものがあった。

そして、岩から沢へと

1986年、パミールの7000m峰に登頂するが、高山の荒涼とした自然に比べると、緑豊かな日本の山の美しさのなかで自然の奥深くに抱かれる沢登りのほうに魅力を感じるようになって

り、次第に沢へと志向が傾倒していく。2003年、仕事の関係で船橋市に居を移し、2005年に船橋労山に入会した。

いまは一年のうち、無積雪期のほとんどを沢に入っている。沢音を聞き、焚火を囲みながら呑む酒が一番美味しいと思っている。好きな山域・流域は越後三山周辺。特に越後の水無川には惹かれるものがあり、北沢と真沢は越後を代表する名渓だと思う。自身が推奨するベスト5に入るだろう。近場では奥秩父の荒川水系(大洞川、滝川、入川)によく入る。

積雪期は誰も入らないようなマイナーな雪稜が好きなのだが、マイナーすぎるのか、パートナーがいなくて困っている。

千葉県連において、沢もそうだが、すっきりとした雪稜ではなく、ヤブ尾根のラッセルもいとわれないような、血の気の多い(?)山屋の結集を呼びかけていきたい。

(吉田哲治)



第14回ふれあいハイク参加ボランティア募集

ふれあいハイク実行委員会

2012年、障害者と一緒にハイキングを楽しむ年になりました。

労山の仲間と障害のある人たちと交流を深め楽しみましょう。ボランティアとして、県連の仲間の参加をお願いします。募集者数100人。（障害者参加30名）

【日程】 2012年5月20日 日曜日

【場所】 丹沢 弘法山～権現山

【参加費】 4、500円

【集合場所・時間】 千葉駅前 NTT前 6時20分

【出発】 6時30分出発

【行程表】 NTT前——穴川インター——市川PA（休憩）——首都高速——新保土ヶ谷インター——国道16号線——横浜町田インター——海老名SA（休憩）——秦野中井インター——弘法山駐車場……弘法山分岐……弘法山……弘法山分岐……権現山……女坂……弘法山駐車場——秦野中井インター——海老名SA（休憩）——横浜町田インター——国道16号線——新保土ヶ谷インター——首都高速——穴川インター——NTT前（解散）

【実行委員】 岡田正勝（千葉こまくさハイキングクラブ）、桑原年一（松戸山の会 県連ハイキング委員長）中村美代子（茂原道標山の会 県連女性委員長）、山崎靖子（ふわくハイキングサークル）、坂田健太（船橋勤労者山の会）



第13回ふれあいハイク 2010年10月17日 奥多摩 御岳山

県連たより

県連盟連絡先

- ◎ 千葉県勤労者山岳連盟事務所
〒262-0033
千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18
レジデンス幕張台 101 号室
TEL・FAX： 043-306-1190
Eメール：rousanchiba@grape.plala.or.jp
JR総武線幕張本郷下車、海側 徒歩5分
- ◎ 千葉県連ホームページ
<http://www.cwaf.jp>
- ◎ 「ちばニュース」原稿送付先
newstoukou@cwaf.jp
- ◎ 事故一報送付先
教遭委員長・岡田 賢一
ken-ichi@f4.dion.ne.jp
Fax：043-271-4704
事故一報は、全国連盟事務局にも必ず送付の事
- ◎ 連盟費振込み先
郵便振替口座 00160-3-481509
千葉県勤労者山岳連盟
- ◎ 東北関東大震災・支援金振込み先
口座番号：ゆうちょ銀行
00130-7-595190
加入者名 佐藤 勝子
〒272-0023
市川市南八幡 1-25-16

★ 助けてください

事務局のお手伝いをお願いします。

事務所の片付け・資料の整理などを、空いた時間でお手伝い下さい。一人でもお友達と一緒にでも大歓迎です。

連絡は：広木まで・連絡先

県連盟よりのお願い

◎ 東日本大震災支援活動

千葉県連盟では、NPO法人を中心にして支援活動を続けます。大勢の入会をお待ちしています。問合せ・ご意見は県連ホームページ「事務局への問合せ」まで。

関連記事は、ページに掲載

☆☆☆ お願い・連絡 ☆☆☆

2月・3月は総会シーズンです。各会の総会も計画されていると思います。

- ・全国連盟総会：2月18・19日
- ・千葉県連総会：3月4日
県連の総会は、どんなものか、気楽に覗きにきて下さい。
- ・理事会では、総会準備を始めています。1月下旬に、議案書・資料の印刷・製本作業があります。県連事務所で実施します。お手伝いをお願いします。連絡・問い合わせは、広木まで

- ◆事故防止交流集会（教遭委員会）に大勢の参加がありました。他の会の事故に学び、同種事故を防止する事は、とても有意義です。次回も大勢の参加をお願いします。

Eメール

danphiro@zpost.plala.or.jp

090-8316-2020

県連活動予定表

1 月		2 月		
1	日	1	水	
2	月	2	木	
3	火	3	金	
4	水	4	土	
5	木	5	日	
6	金	6	月	
7	土	7	火	役員会
8	日	8	水	〃
9	月	9	木	〃
10	火	10	金	役員会
11	水	11	土	
12	木	12	日	
13	金	13	月	
14	土	14	火	関東ブロック会議
15	日	15	水	
16	月	16	木	女性委員会17時救助隊19時 理事会
17	火	17	金	
18	水	18	土	全国連盟総会
19	木	19	日	理事会 〃
20	金	20	月	
21	土	21	火	救助隊訓練
22	日	22	水	〃
23	月	23	木	拡大部会
24	火	24	金	
25	水	25	土	
26	木	26	日	拡大部会
27	金	27	月	
28	土	28	火	
29	日	29	水	
30	月			
31	火			

発行者 : 千葉県勤労者山岳連盟
 〒261-0013 千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18
 rジデンス幕張台101号
 TEL・FAX : 043-306-1190 (事務所には常駐していません)
 Eメール : rousanchiba@grape.plala.or.jp
 発行者責任者 : 吉田 哲治 編集責任者 : 広木 国昭